



大学改革への期待と 運営費交付金のあり方

2014年11月17日

(一社) 日本経済団体連合会 産業技術委員会

産学官連携推進部会長

(株) 旭リサーチセンター 相談役

永里 善彦



本日の内容

- **大学改革の方向性**
- **英国の資金配分の仕組み**
- **機能分化のイメージ**
- **運営費交付金配分のあり方**
- **大学評価のあり方**



大学の国際競争力強化のために

交付金の改革により、大学改革を促進

機能別に分化

「研究重点型」、「地域貢献重点型」、「教育重点型」へ

競争原理の導入

厳格な評価基準を導入し、評価に応じた資金配分を

ガバナンス改革

学長のリーダーシップ強化を

質の保証

大学間の競争による質向上

「学校教育基本法」の改正により
主な項目は実現へ



運営費交付金改革の方向性

運営費交付金の3～4割を、改革のインセンティブに

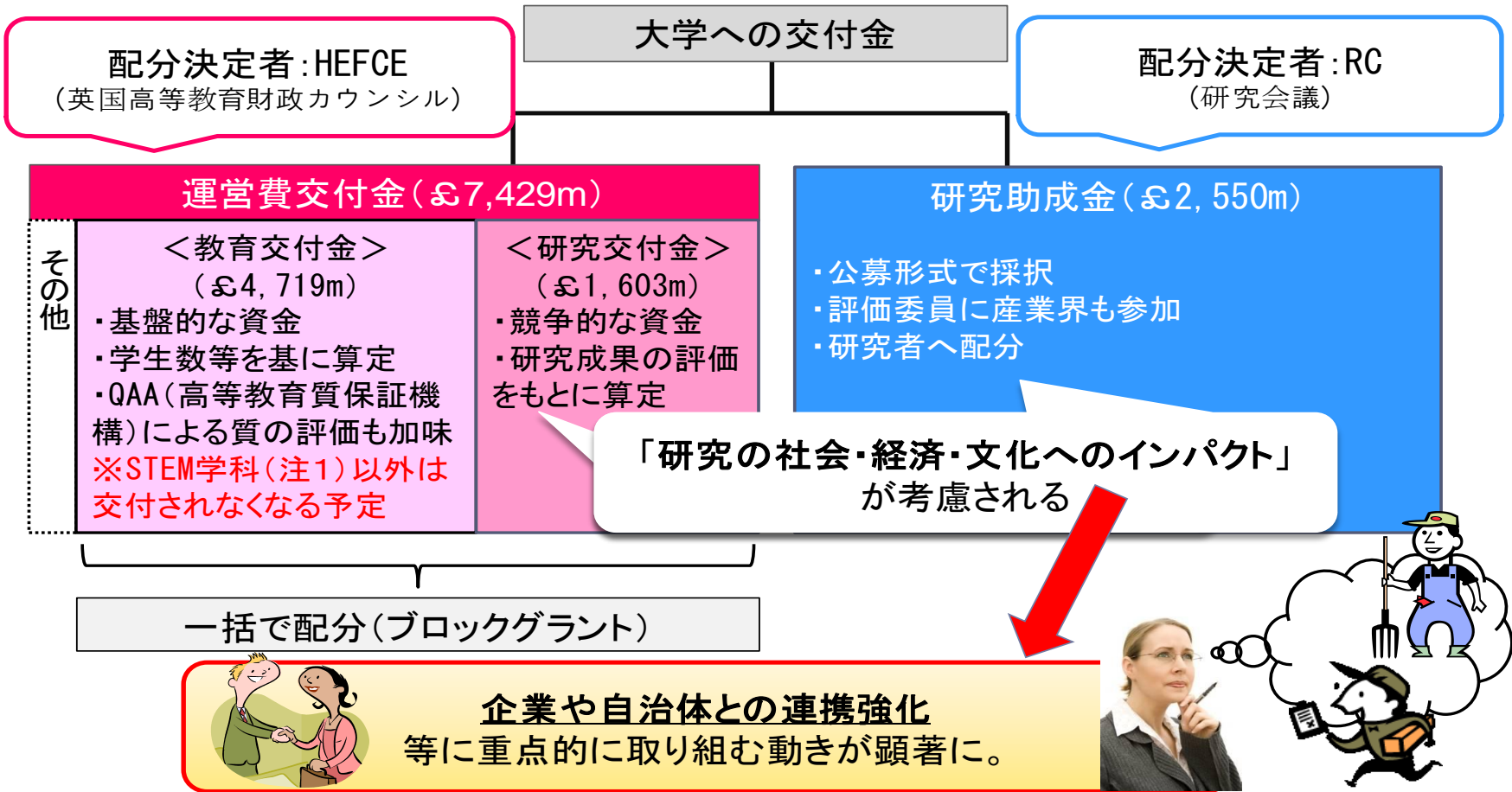
国立大学改革プランより

- ・ **改革加速期間中に各大学の改革の取組への配分及びその影響を受ける国立大学法人運営費交付金の額を3～4割に**
- ・ **ミッションを踏まえ、学部・研究科等を越えた学内資源配分（予算、人材や施設・スペース等）の最適化、大学の枠を越えた連携、人材養成機能強化等の改革を改革加速期間中に実施する大学に対し、国立大学法人運営費交付金等により重点支援**



英国の資金配分の仕組み

運営費交付金は、教育交付金(基盤的な資金)、研究交付金(競争的な資金)から構成



その他

運営費交付金 (£7,429m)

研究助成金 (£2,550m)

＜教育交付金＞
(£4,719m)

＜研究交付金＞
(£1,603m)

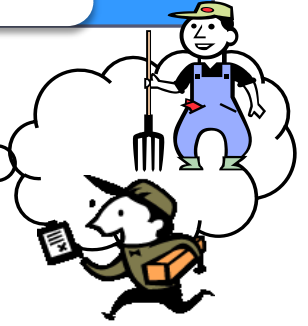
- ・基盤的な資金
- ・学生数等を基に算定
- ・QAA(高等教育質保証機構)による質の評価も加味
- ※STEM学科(注1)以外は交付されなくなる予定

- ・競争的な資金
- ・研究成果の評価をもとに算定

一括で配分(ブロックグラント)



企業や自治体との連携強化等に重点的に取り組む動きが顕著に。

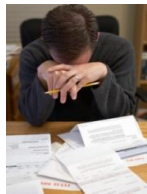


注1 STEM学科 : 科学、技術、工学、数学分野の学科



英国の資金配分の仕組み

配分組織は政府から独立、交付金の割合にシーリングあり



政府

HEFCE、RC

大学・研究者

総額を決定

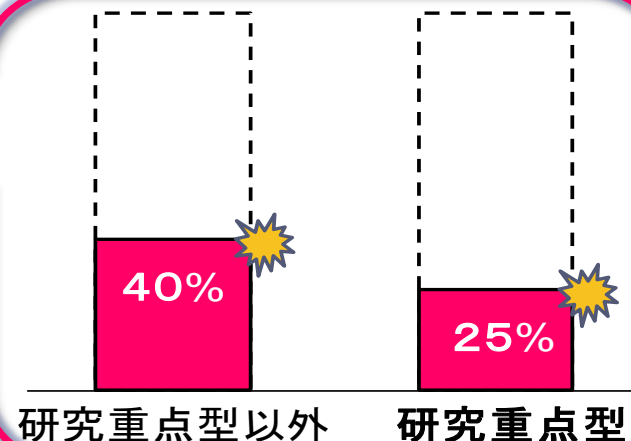
独立性をもって
選択的な配分を決める

資金配分される

大学の年間予算に対する
運営費交付金の割合にシーリングあり

産業界からの資金、RCからの資金で
まかなう必要あり

産学連携、優秀な研究者獲得に努める





機能分化のイメージ

3類型のなかで競争

各大学が自ら選択

研究重点型

1軍



2軍



教育重点型

1軍



2軍



地域貢献型

1軍



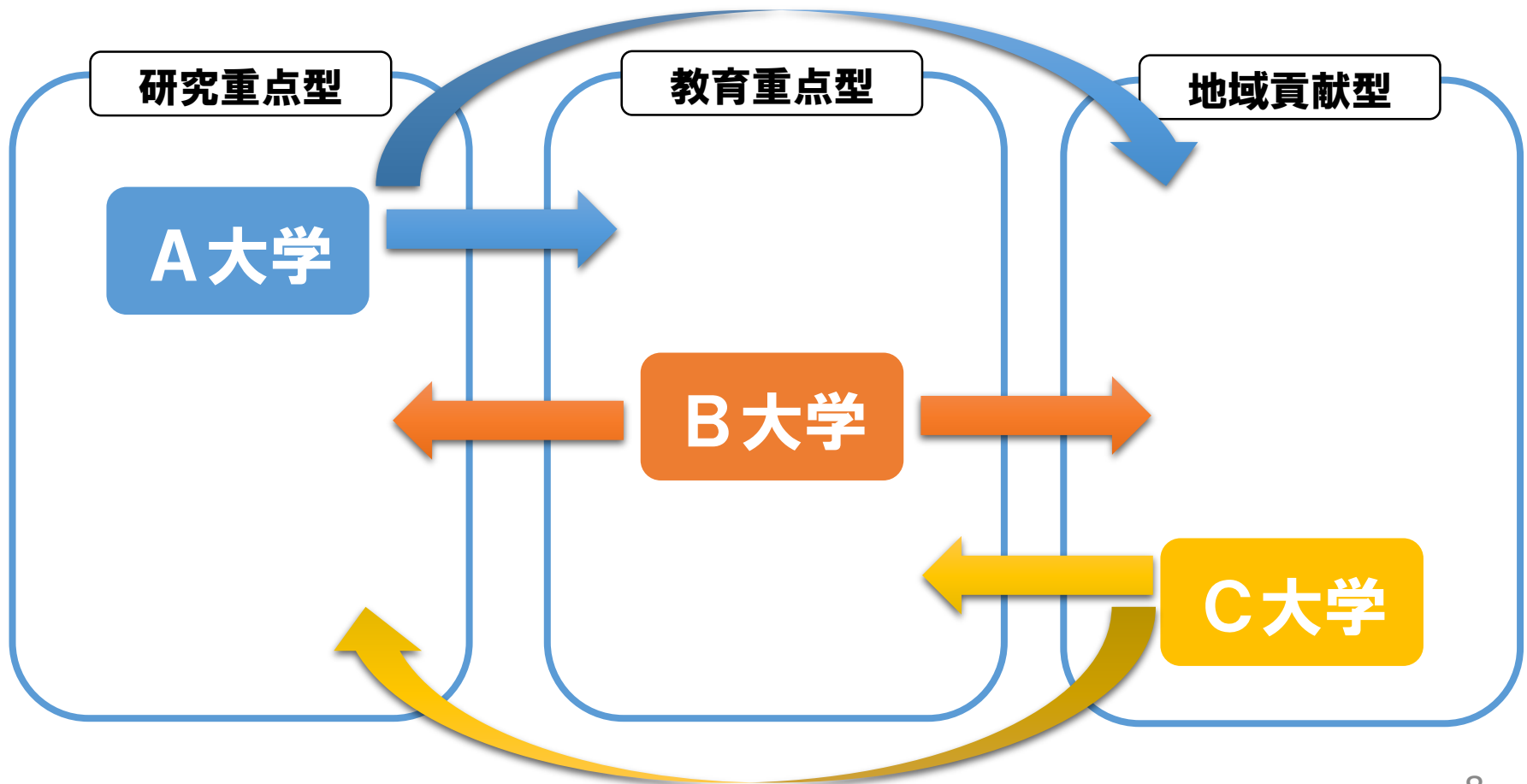
2軍





機能分化のイメージ

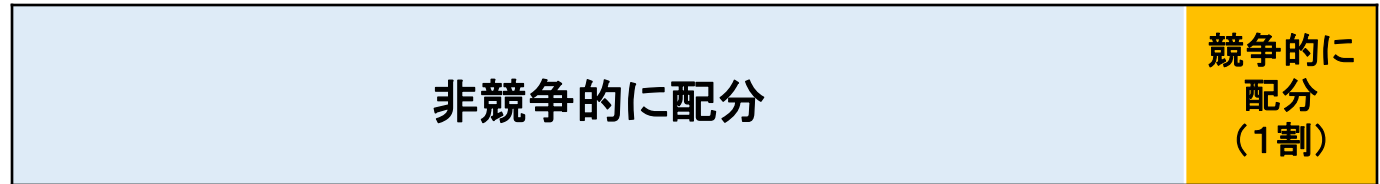
各大学は柔軟に類型を変更





運営費交付金配分のイメージ

【 現 状 】



【今後：第1段階】

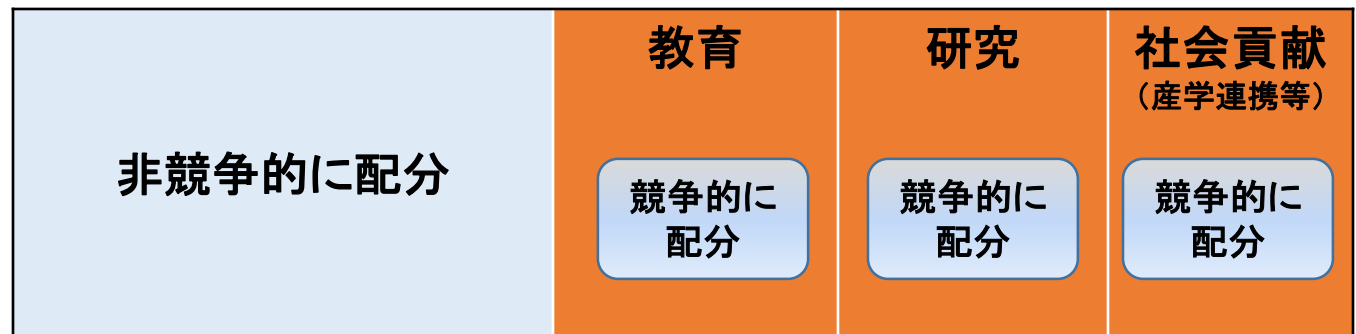
改革加速期間
(2015年まで)に

*「国立大学改革
プラン」にて言及



【今後：第2段階】

第3期中期計画
(2016年度～)以降





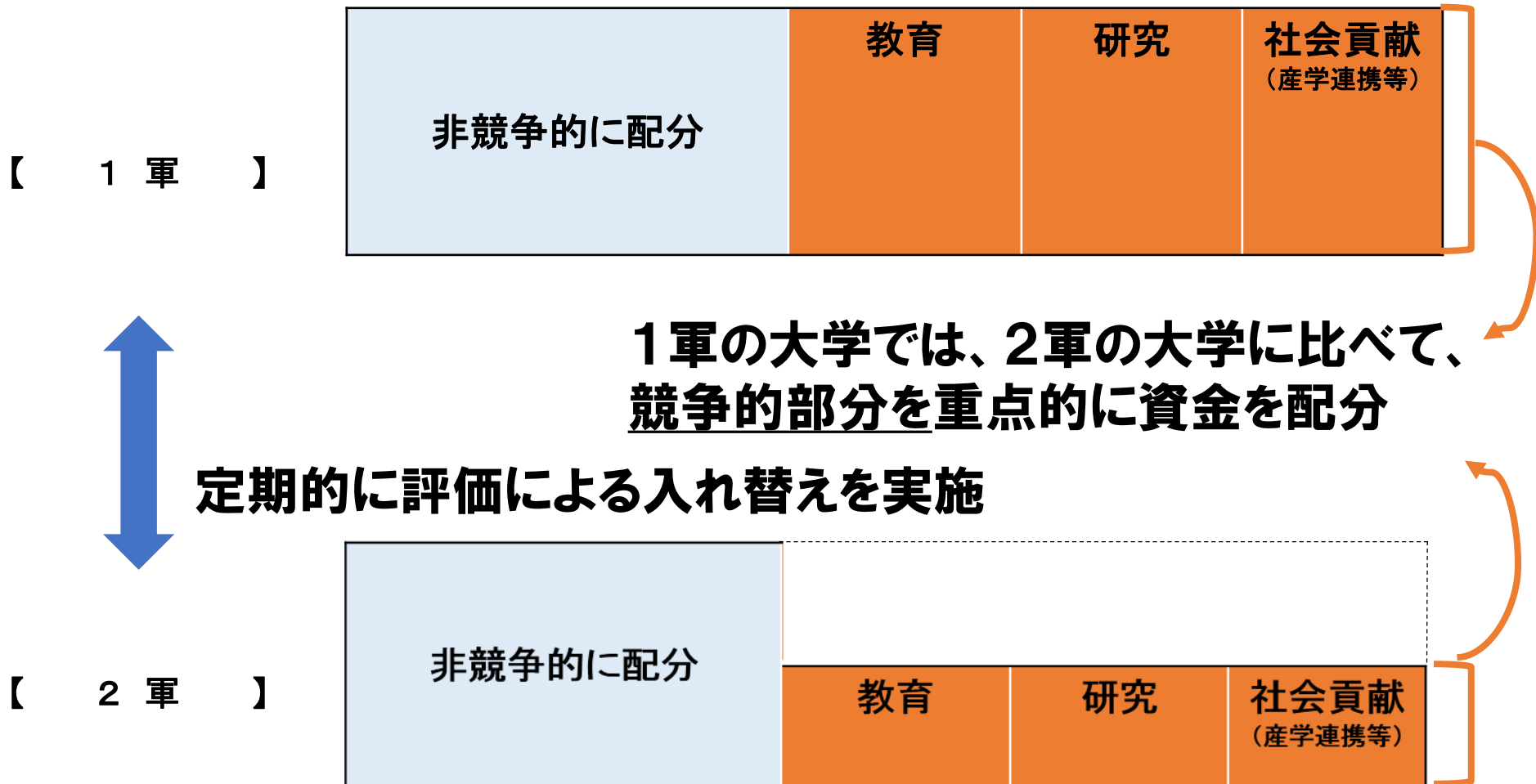
運営費交付金配分のイメージ

【 研究重点型大学 】	非競争的に配分	教育	研究	社会貢献 (産学連携等)
【 教育重点型大学 】	非競争的に配分	教育		研究 社会貢献 (産学連携等)
【 地域貢献型大学 】	非競争的に配分	教育	研究	社会貢献 (産学連携等)



更なる競争のために

機能別大学内で配分総額に差をつけ、更なる競争を





大学改革促進に向けて

ガバナンス改革を行った大学へは横断的な補助を

- 「国立大学改革強化促進補助金」のような取り組みを継続的に



取り組みの例...

- ・大学や学部を超えた組織の再編成
- ・人材の新陳代謝、年俸制への切り替え



学長の権限強化を

学長に求められる素質(英国の例)

アカデミックな信頼性

ビジネス関係の能力（ブランド作り、資金調達）

対外的なプレゼンス

経営陣の適切な管理

アカデミック・コミュニティに対する説得力

カウンスル（理事会）との関係重視

変革をマネジメント



公立大学に学べ

成功のポイントは...

改革意識・リーダーシップを持った学長

地方自治体との連携

しがらみ(教授会)との決別

国際教養大学

授業は全て英語

海外留学が義務

厳しい進級・卒業

会津大学

先進的な
コンピューター教育

4割が外国人教員

厳しい進級・卒業

公立はこだて未来大学

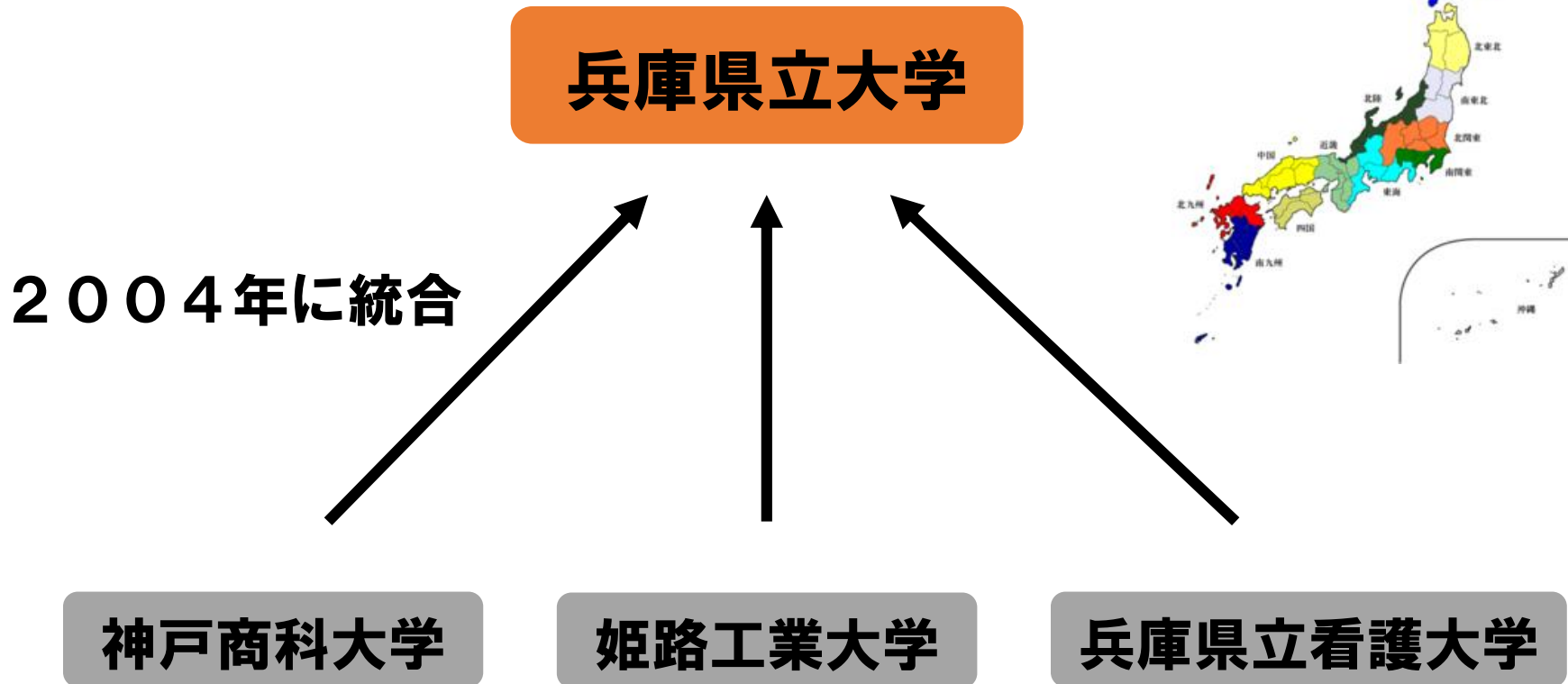
システム情報科学
に特化した教育

先進的なキャンパス



公立大学に学べ

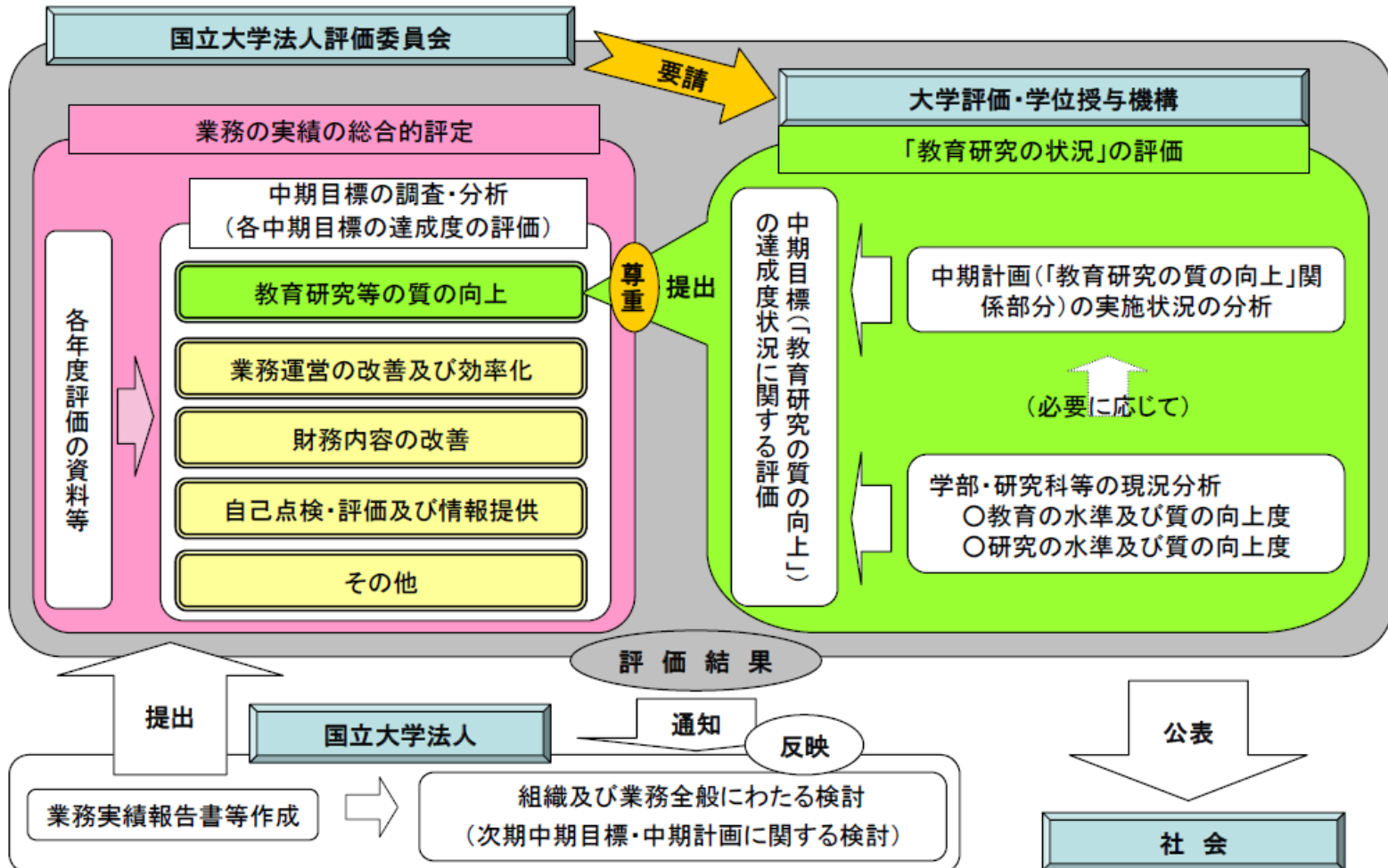
地方創生に向けて、地方国立大学の合併も





現在の大学評価の仕組み

評価と評価反映の関係が不透明（実効性なし？）





今後の大学評価のあり方

評価結果が交付金配分に結びつく
透明性の高い仕組み



各大学間で配分に差をつけることへ
説明責任の発生



評価によって改革を促す機関が必要



- 評価委員の選定
- 評価内容の見直し
- 評価内容の評価